

作品の収集活動 ―中谷千代子の絵本原画―

美術館が果たす文化財保存の役割も、展示や教育にまつわる活動も、まず作品がそこにあるところから始まります。美術館の土台を成すのが作品を収集する活動であり、収集によって形成された所蔵品（コレクション）は、そのまま美術館が纏う性格や特色にもつながっていきます。



中谷千代子《しろきちとゆき》18-19頁原画 1981年

月刊絵本「こどものとも」の初期作品を起点として1998年以来収集している絵本原画は、当館の特色あるコレクションの一つです。そこに令和5年度、絵本の画家・中谷千代子のアトリエに残されていた原画やデッサンなど、新たに71タイトル700枚以上が加わりました。

東京美術学校（現・東京藝術大学）油画科で梅原龍三郎に学んだ中谷千代子（1930-1981）は、友人で詩人の岸田衿子と二人で絵本制作を志し、1960年に「こどものとも」から『ジオジオのかんむり』を出版しました。まだ絵本の絵に油彩画を用いる画家が世界的にも少なかった当時、キャンバスに油彩で描かれた写実味と親しみのある動物たちや透明感ある色彩の世

界が、スイスの絵本研究家ベッティナ・ヒューリマンやフランスの編集者パール・カストールから高い評価を受け、1962年発表の『かばくん』はたちまち翻訳出版されました。これは画家個人の功績としてはもちろん、日本の児童文学史においても、戦後に欧米を手本として始まった日本の創作物語絵本が、海外でも認められた画期的なできごとでした。

今回の収集品には、その後も絵と文筆で児童出版界を導いたこの画家の、海外交流から生まれた作品や絶筆など、要所となる作品が含まれています。油彩のみならずインクや銅版技法ほか表現も多彩に富むそれらはまた、中谷千代子の奥深い表現世界を伝えてもくれるものでもあります。こうして絵本原画コレクションは、一層の充実を見ることとなりました。

（学芸部 菅野仁美）

当館コレクションによる展覧会

令和6年度に引き続き、当館を代表する作品の数々をご覧ください。展覧会を各地で開催してきました。「響きあう絵画」展は全国5会場を巡り終え、「絵本のひみつ展」もいよいよ栃木県立美術館が最後の会場です。中谷千代子の《ジオジオのかんむり》や《かばくん》も出品中！



展覧会名	宮城県美術館コレクション 絵本のひみつ展
会場・会期	栃木県立美術館 2025年10月25日（土）～12月21日（日）

※展覧会の詳細は会場にお問い合わせください。
<https://www.art.pref.tochigi.lg.jp/exhibition/t251025/index.html>



画像提供の協力をしました

東京都三鷹市にある三鷹の森ジブリ美術館にて、「ぐりとぐら」の絵で知られる山脇百合子さんの仕事部屋を再現した企画展示が開催中です。山脇さんの絵本原画を多数所蔵する当館は、所蔵品画像の提供や色校正などで協力しました。



©Kentaro Yamawaki ©Akemi Yoshihara ©Museo d'Arte Ghibli

企画展示名	『山脇百合子さんの仕事部屋』展 ～こちゃこちゃから見えるもの～
会場・会期	三鷹の森ジブリ美術館 2025年11月19日（水）～2027年5月（予定）

※三鷹の森ジブリ美術館の入場チケットは、日時指定の予約制です。展覧会の詳細は会場にお問い合わせください。
<https://www.ghibli-museum.jp/exhibition/013979/>



作品貸出情報

右記の展覧会に当館の所蔵作品を貸し出しています。
 ※休館日等詳細は各館WEBサイトなどでご確認ください。

展覧会名	会場・会期
いつもとなりにいるから 日本と韓国、アートの80年	横浜美術館 2025年12月6日（土）～2026年3月22日（日）
中村宏展 アナクロニズム（時代錯誤）のその先へ	静岡県立美術館 2026年1月20日（火）～3月15日（日）
下村観山展	東京国立近代美術館 2026年3月17日（火）～5月10日（日）

宮城県美術館ニュース（休館中限定号）
 Vol.9 発行日／2025年12月19日

休館中の当館の情報については、WEBサイトも併せてご覧ください
<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>

宮城県美術館

〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1 電話番号：022-221-2111
 メール：bijutu@pref.miyagi.lg.jp ファックス：022-221-2115



この印刷物は宝くじの収益金で作成されています。

宮城県美術館ニュース

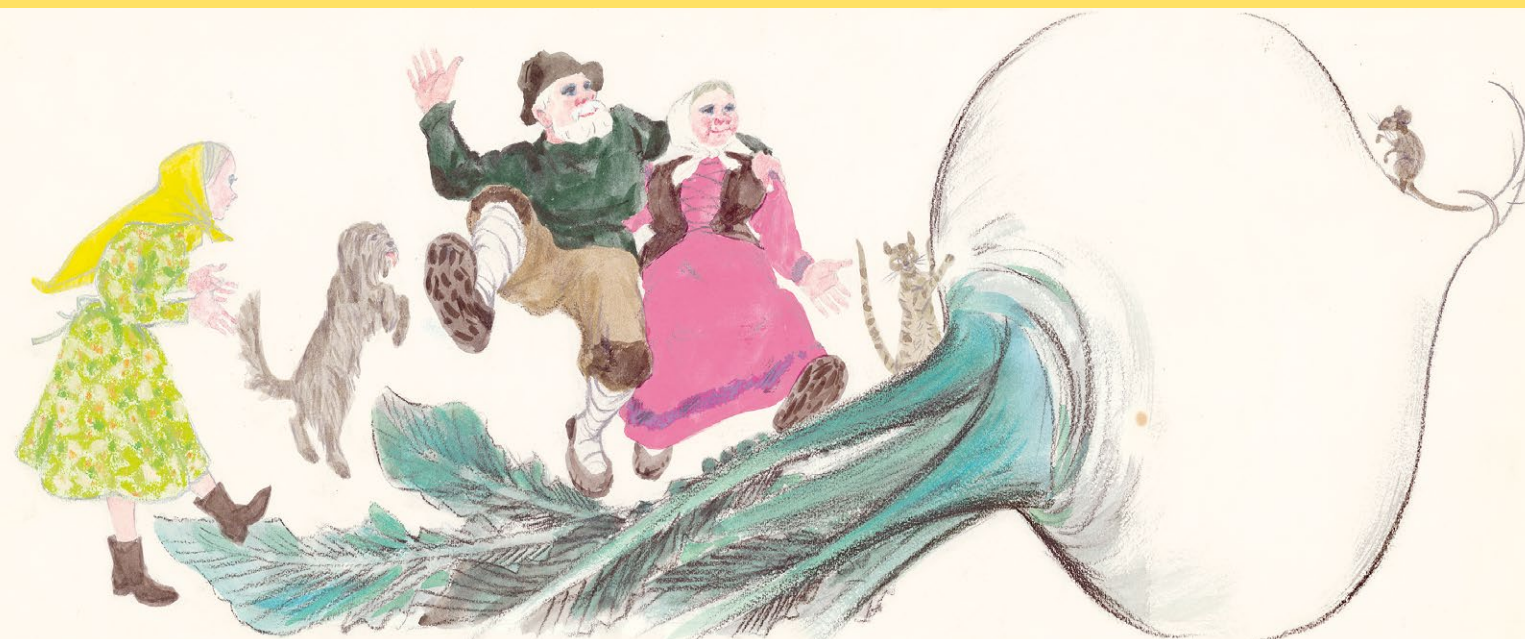
休館中
限定号

Vol.9
最終号

2025年12月19日発行

RENEWAL LETTER

COMING SOON...



佐藤忠良《おおきなかぶ》26-27頁原画 1962年

リニューアルした宮城県美術館で
お会いしましょう。

宮城県美術館は、2026年夏頃

リニューアルオープンを予定しています。

「見える収蔵庫」のできるまで

美術品も物質である以上、経年によって少しずつ状態が変化します。保存環境が悪ければ、劣化が進み、鑑賞に堪えない姿になってしまうこともあります。そのため美術館には、収集方針に沿って美術品を収集し、出来るだけ劣化しないように保存し、長く後世に残す使命があります。そしてそれらを展示公開し、人々に伝える役割があるのです。

この、作品保存のための施設が「収蔵庫」です。収蔵庫は、文化財を盗難や災害から守り、さらにマイクロレベルで作品を破壊する温湿度の変化や紫外線、カビ、害虫など、大小様々なダメージから守るように設計され、運用されています。そのため、収蔵庫は本来、限られた関係者しか見る事の無い場所でした。しかし今回のリニューアルで、当館に新設される「見える収蔵庫」では、こうした知られざる施設の一部を、来館者も体感出来るようになります。

「見える収蔵庫」の発想は10年前、当館のリニューアルの構想を検討する中で生まれました。当時、欧米でヴィジブル・ストレージやオープン・ストレージ等と呼ばれる、敢えて収蔵庫を見せる取り組みが増えつつあ



ブルックリン・ミュージアムのヴィジブル・ストレージ

ニューヨークのヴィジブル・ストレージの調査については、以下のウェブページで報告書をご覧ください
<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/infomation-researchreports.html>

休館中の美術館の舞台裏

リニューアル工事中も当館では、作品の保存と収蔵庫や展示室の環境維持に努めています。

改修工事に伴い、本館収蔵庫内で保管していた何千点という作品は、空調とセキュリティの整った別の場所に移すなど、適切な保存に努めるとともに、空になった収蔵庫や展示室も、化学物質や塵埃、カビなど、作品保管に影響のあるものに対し、様々な

り、日本でも、所蔵点数の多い埋蔵文化財センターや大学の総合博物館等でこうした施設が見られるようになっていました。一方、国内の美術館では、特定の人収蔵庫を見ることが出来る活動等はありませんでしたが、まだ例外的でした。そこで当館が参考にしたのは、人々に見せる収蔵庫として、ヴィジブル・ストレージを先駆的に設置していたニューヨークの美術館の取り組みでした。

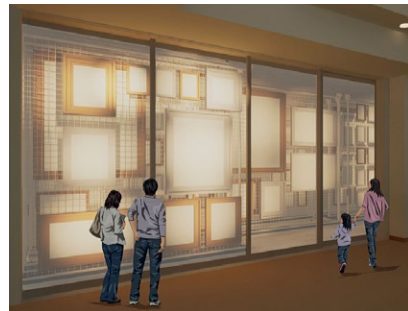
2019年には、公益財団法人カメイ社会教育振興財団の助成を受け、メトロポリタン美術館やブルックリン・ミュージアム等のヴィジブル・ストレージを調査し、特にブルックリン・ミュージアムでは、ヴィジブル・ストレージの建築的な構造や収蔵展示のテクニック、運用方法などを取材、当館の「見える収蔵庫」の設計の参考にもしました。

2017年に当館のリニューアル基本方針の中間案が発表された際、「見える収蔵庫」の構想は新聞や雑誌でも取り上げられ、話題となりました。その後、横手市増田まんが美術館のまंगाの蔵や東京藝術大学大学美術館取手収蔵棟の魅せる収蔵庫等がオープンしたものの、当館の「見える収蔵庫」はいまだ先駆的な取り組みであると考えています。

当館の「見える収蔵庫」の特徴は、来館者なら誰でも見る事が出来る点です。大きな収蔵庫に窓をあけて見せるかたちではなく、見せる収蔵庫として整備した施設で、広くはありませんが、収蔵庫と同じ材料で出来ており、温湿度なども同じ環境で、数多くの絵画を保管している迫力ある様子をガ

対策を行っています。

収蔵庫や展示室の改修工事では、出来るだけ作品にリスクのない素材を選び、ケミカルフィルター等による対策も行います。また環境維持には温湿度コントロールも必要ですが、工事を行う収蔵庫や展示室では、空調機を止めなければならない期間もあり、室内にカビのリスクが生じないよう、そうした間は、送風機で空気を動かし、除湿器を何台も置いて、湿度を下げる対策も行いました。



当館の見える収蔵庫のイメージ図

リニューアル・オープンでのお披露目まで、あと少しお待ちください

ラス越しにご覧頂くことが出来ます。定員を設け、中に入って行うプログラムも検討しています。

美術館にとって、収蔵庫は中核となる施設です。しかし近年、全国では収蔵スペースが足りなくなってきた美術館が増えており、収蔵品の保管環境の維持が課題となっています。この問題は全国紙でも注目され、当館の「見える収蔵庫」は新しい取り組みの一つとして複数の紙面に取り上げられました。

収蔵庫の狭隘化が課題となっていたため、当館もリニューアルで収蔵庫を増設することとなりましたが、当館は改修にあたり、その一部を「見える収蔵庫」として整備することで、美術館の収集・保存の役割を皆様にもお伝えしたいと考えました。そして「見える収蔵庫」を、収蔵と展示の境界を越えた、新たなコレクション体験の場にもしたいと考えています。

開館当初より「開かれた美術館」を掲げてきた宮城県美術館の新たな挑戦です。楽しみにお待ちください。

(学芸部 加野恵子)

(当館の再開館に関する一部報道を見て、カビでも発生したのかとのお問い合わせがありました。そのような事実はありません)

工事終了後には、専門的な特別清掃と環境調査を行い、万全の環境で再び作品を迎える予定です。

こうして私たちは、宮城県の大切な財産である所蔵品を守り続けています。

(学芸部 加野恵子)

休館中の教育普及事業 学校アウトリーチ

休館中は、当館スタッフが県内の学校に出向き、コレクションから作成した高精細レプリカやアートカードを活用して、出前授業を実施しました。令和7年度は、小・中学校7校、支援学校と大学病院の院内学級2校を訪問しました。今回は、その中から3校の授業の様子を紹介します。

授業 [その1]

「いろとかたちをつなぐ」

【実施校】 白石市立大平小学校
 【実施日】 2025年4月30日(水) 【対象】 3、4年生(合同)

この授業は、パウル・クレーの作品を出発点に、鑑賞と表現の活動を深めるプログラムです。まずは、当館所蔵の《緑の中庭》《橋の傍らの三軒の家》《アフロディテの解剖学》を皆で鑑賞し、



形と色を重ねる実験

感じたことを自由に言葉にします。児童たちは、じわりと滲む色彩や揺落としの跡、作品の大胆な切断など、それぞれの作品に見られる実験的な表現に興味津々の様子でした。その後は、好奇心旺盛なクレーの制作態度にならい、班に分かれて描画の実験に取り組みました。順番にサイコロを振り、出た目に応じて使える画材と形が決まるというちょっと変わった描き方で、形と色を重ねていきます。活動が進むにつれ、「この線かっこいいね!」「新しい色が生まれそう」「この形、宇宙人に見えてきた!」と会話も弾み、色とりどりの画面の様子も、さまざまな表現への向き合い方も、豊かに変化していきました。

最後に、出来上がった作品を展示して全員で鑑賞しました。

生涯にわたり新たな表現を探索したクレーに思いを馳せつつ、児童たちの自由で多彩な表現を味わう時間となりました。

(教育普及部 山田今日子)

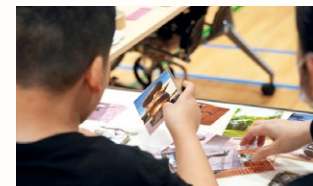


個性的な作品がずらり

授業 [その3]

「彫刻を鑑賞しよう!ーアリスの庭と仲間たちー」

県立こども病院に入院している小中学生が学ぶ県立拓桃支援学校に、教育普及部の職員が



アートカードを鑑賞中

出向いて授業を行いました。

当館の屋外には多数の彫刻が展示されています。なかでも「アリスの庭」と呼ばれる屋外空間には、人物や動物などを題材にした彫刻13点が設置されています。

出前授業では、この屋外彫刻の画像を使ってカード状にした

授業 [その2]

「絵を見比べる」

【実施校】 大崎市立鹿島台中学校
 【実施日】 2025年6月25日(水) 【対象】 1年生

授業では、ヴァシリー・カンディンスキー作品の高精細レプリカ、《水門》《「E.R.キャンベルのための壁画No.4」の習作(カーニバル・冬)》《活気ある安定》を使用しました。生徒は作者を知らない状態で、鑑賞の活動を行いました。まず、作品の部分写真を載



《活気ある安定》を天地逆さに見てみる

せた「クローズアップシート」を手に、個人で作品を観察して、該当する作品がどれかを考えてもらいました。

次に、班に分かれて、3点の作品を見比べ、同じ画家が描いた作品の組み合わせを推理する活動をしました。そして、各班の代表者が、推理した組み合わせと、その理由を話しました。色彩や絵具の使い方、描かれた対象、サインなどの類似や違いに注目していました。

最後に、作者が全て同じことを明かし、各班の着眼点と絡め、画家の紹介をしました。授業後に生徒からは、「同じ人が3つの作品を作っている、その絵から感じることはそれぞれ違い、面白かった」などの感想が寄せられました。見比べを契機に、一人の画家の表現の幅広さを実感し、他の人の感じ方にも触れ、作品をじっくり見る時間になりました。

シートを手に《水門》のレプリカを鑑賞

(教育普及部 藤井恵理子)



シートを手に《水門》のレプリカを鑑賞



量感あるハトが完成!

(教育普及部 郷 泰典)